

## 令和8年度第23回四国地域福祉実践セミナーin 愛媛・宇和島 開催要項(案)

「誰もが支え手となる時代に向けて、今わたし達にできることは  
～ROAD to 2040～」

### 【趣旨・目的】

近年、少子高齢化や人口減少が進んでいる中、高齢者世帯や単身世帯の増加により、人々の暮らしの中での課題は、複雑化、多様化しています。

このセミナーではこれらの課題解決力の強化等地域共生社会の実現に向けて、四国で取り組んでいる実践者や団体から学び、住民主体の地域づくりについて改めて考えることを目的に開催するものです。

開催期日	令和8年8月1日(土)12時30分(受付11時30分から) から令和8年8月2日(日)12時30分まで
会場	宇和島市立コスモスホール三間 他 (愛媛県宇和島市三間町迫目138)
主催	第23回四国地域福祉実践セミナー実行委員会
共催	日本地域福祉学会/宇和島市社会福祉協議会/愛媛県社会福祉協議会
後援 (予定)	愛媛県社会福祉協議会/香川県社会福祉協議会/徳島県社会福祉協議会/高知県社会福祉協議会/愛媛県社会福祉士会/愛媛県民生児童委員協議会/愛媛県社会福祉法人経営者協議会/愛媛県老人福祉施設協議会/愛媛県保育協議会/愛媛県児童福祉施設連合会/愛媛県身体障害者施設協議会/愛媛県知的障害者福祉協会
参加対象	・地域福祉に関心をお持ちの住民、ボランティア、NPO ・医療、保健、福祉及び地域福祉に携わる専門職 ・行政、民生委員児童委員、高齢・障がい者団体、社会福祉法人、社会福祉協議会等
定員	500名
参加費	1人当たり一般3,000円、学生1,000円

## 【プログラム】

8月1日(土) 12:30~17:15

11:30 12:30 13:00 14:50 15:15 17:15 18:30 20:30

受付	開会 行事	シンポジウム	移 動	分科会	移 動	交流会
----	----------	--------	--------	-----	--------	-----

8月2日(日) 9:00~12:30

8:30 9:00 10:15 10:30 12:00 12:20 12:30

受付	分科会 報告	休 憩	総括講演	俳句 表彰	閉 会 行 事
----	-----------	--------	------	----------	------------------

## 【内 容】

### 1 日目【8月1日(土)】

#### ○ 開会行事・シンポジウム(12:30~14:50)

会場：コスモスホール三間

12:30~13:00 開会行事

13:00~14:50

**テーマ** 「豪雨を経験した宇和島から始まる私が“生きる”地域づくり  
ROAD to 2040」(仮題)

#### ○シンポジスト

- ①宇和島市役所 代表者
- ②宇和島市社会福祉協議会 代表者
- ③宇和島市内福祉関係者 代表者

#### ○コーディネーター

公益財団法人 テクノエイド協会 理事長  
特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所 顧問 大橋 謙策 氏

## ○ 分科会（15：15～17：15）

分科会 1	「災害にも強い」つながりある地域づくり
<p>【趣旨】</p> <p>近年大規模化・頻発化する自然災害では、外部からの支援を期待できない状況に陥ります。その中であって、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、個々の地域が主体となって災害への備えを進めることが非常に重要です。また、その備えは建物やインフラなどのハード面を進めるだけでは不十分であり、地域住民や企業、団体等で支えあえる「顔の見える関係づくり」といったソフト面での対策が必要不可欠です。ついては、社協やNPO等の実践を通して、「災害にも強い」地域のつながりづくりをどのように進めることができるかを、参加者の皆さんと意見交換しながら考えます。</p>	
<p>【ターゲット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災に興味関心がある人（自治会、地域団体、自主防災組織、防災士）</li> <li>・福祉専門職（災害を切り口に地域福祉を推進したい）</li> <li>・社協職員、NPO（災害ボランティアセンターの運営に関わる）</li> </ul>	
<p>【構成】（選定中）</p> <p>○船頭（ファシリテーター） 1名 ○アドバイザー（有識者） 1名 ○実践発表者 3名</p> <p>&lt;選定キーワード&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民でのつながり（地域でやっている取り組み）</li> <li>・社協企業団体行政とのつながり</li> <li>・福祉教育×災害</li> <li>・技術系ボランティアとのつながり</li> <li>・福祉専門職の平時のつながり</li> </ul>	

分科会 2	その人らしく「生きる」を支える
<p>【趣旨】</p> <p>2040年、日本は単身世帯が全世帯の約4割に達し、「家族」というセーフティネットがさらに細分化されます。これまでの福祉は「困りごとがある人」を支えるものでしたが、これからは「誰もが当事者になり得る孤立」をどう防ぎ、最期までその人らしく生き切るための権利をどう守るかが問われます。本分科会では、実践を通して、身寄りのない方への支援や権利擁護、住民と専門職の新たな協働のあり方を深掘りし、地域に暮らす「お一人おひとり」をどう支えていくことができるかをみんなで考えます。</p>	
<p>【ターゲット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉専門職（権利擁護、金銭管理、死後事務棟に従事、ケアマネ）</li> <li>・民生委員（見守りに悩んでいる）</li> <li>・当事者、当事者家族（終活に興味がある、家族が遠方にいる）</li> </ul>	

【構成】（選定中）

○船頭（ファシリテーター） 1名

○アドバイザー（有識者） 1名

○実践発表者 3名

<選定キーワード>

尊厳と権利

- ・身寄りのない方への支援（死後事務、保証人）
- ・お金を扱う取り組み（判断力低下に対する支援）

予防とアウトリーチ

- ・多様な生活支援活動（フォーマル・インフォーマル）
- ・孤独孤立への専門職の予防的介入

住民間のみまもり、支え合い

- ・住民間のみまもり、支え合い活動
- ・お金を扱う取り組み（判断力低下に対する支援）

分科会  
3

「困っている人」を支える「ごちゃませ」チームプレー  
(重層的支援体制整備事業こと始め)

【趣旨】

現代社会では、孤立やひきこもり、生活困窮などが絡み合った、既存の窓口だけでは解決できない複雑な課題が増えています。その中で求められているのは、行政や社協、NPO、住民が立場の垣根を越え、強みを持ち寄る「ごちゃませ」のチームプレーです。「目の前の人を誰も取り残さない」福祉を実現するために進められている「重層的支援体制整備事業」。本分科会では、行政と各団体が手を取り合い、目の前の「困っている人」を支えるために進めてきた体制づくりと悩み、その思いを、実践事例を通して共有し、自分たちの町らしい「支え合いのカタチ」を皆さんと共に考えます。

【ターゲット】

- ・行政職員（重層的支援体制整備事業を行う、行いたい）
- ・社協職員（重層的支援体制整備事業との関わり方、受託を検討）
- ・民生委員（引きこもりの方や世帯を担当している）
- ・専門職（スクールソーシャルワーカー島）

【構成】（選定中）

○船頭（ファシリテーター） 1名

○アドバイザー（有識者） 1名

○実践発表者 3名

<選定キーワード>

- ・それぞれの取り組みと悩み、思いをアウトプットする
- ・災害をきっかけとした支援体制（宇和島）
- ・ヤングケアラー、児童養護施設等、孤立した子どもへの伴走支援

分科会 <b>4</b>	<b>「暮らし続けたい」を支える！          玄関から広がる「豊かなおでかけ」を考える</b>
<p><b>【趣旨】</b></p> <p>「病院や買い物には行けるけれど、バス停からの帰り道が辛い。」「部活、塾に参加したいけど、バスがないから地元を離れて下宿しないといけない。」</p> <p>近年、人口減少による過疎化の影響で、暮らしを支える移動手段が脆弱になっています。高齢化者から子どもまで、私たちが地域で自分らしく暮らし続けるためには、食料の購入や通院、通学といった必要最低限の外出だけでなく、「友人に会いたい」「お気に入りの場所へ行きたい」「部活に参加したい」といったワクワクするお出かけも重要です。本分科会では、生活を支える移動の課題に向き合い、誰もが自由に行きたいところへ行ける地域や仕組みづくりについて、実践事例を通して、皆さんと一緒に考えます。</p>	
<p><b>【ターゲット】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民（移動に困っている、困るだろう、困っている人を知っている）</li> <li>・社協職員（生活支援体制整備事業担当者）</li> <li>・行政職員（福祉、公共交通関係）</li> </ul>	
<p><b>【構成】（選定中）</b></p> <p>○船頭（ファシリテーター） 1名</p> <p>○アドバイザー（有識者） 1名</p> <p>○実践発表者 3名</p> <p>＜選定キーワード＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア、企業、行政による取り組み</li> <li>・病院やスーパー等最低限のおでかけも行けない</li> <li>・移動によって自分らしい生活を長く続けられる</li> <li>・多様な外出の支援</li> </ul>	

2 日目【8月2日（日）】

会場：コスモスホール三間

○ 分科会報告（9：00～10：15）

各分科会からの報告

○ 総括講演（10：30～12：00）

講 師 日本社会事業大学 名誉教授  
公益社団法人 テクノエイド協会 理事長  
特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所 顧問 大橋 謙策 氏

○ 俳句表彰（12：00～12：20）

〈地域福祉五七五（地域福祉句会）の開催について〉

セミナー開催に当たり、恒例の地域福祉句会を開催します。投句方法等は、セミナー当日に改めてお知らせしますが、皆様の投句をお待ちしています。

○ 閉会行事（12：20～12：30）